孔雀のボンプ

ボンプというのは、孔雀の名、とてもきれいな孔雀でした。けれどもボンプは、ボンプでした。ボンプとい
うのは高慢さという英語です。ボンプが、初めてこの農園に来た時は、みんなが出迎えました。鳥たちみんな、おんどりも、めんどうりも、あひるも、七面鳥も出迎えました。みんな
牛も、豚も羊も出迎えました。けれどもボンプは、仲よしにしようとしませんでした。つんとしましてい
ました。だんだんにそり返って、ひずっていった尾の羽根を、扇のようにひろげました。青と緑と金色に、羽根は太陽の光の中に、きらきらと輝きま
下に顔をつっこみました。二番目に口をひらいたのは、あひるたちでした。
「クワ、クワ、お見ごと、お見ごと。」
こう合唱をしながら、ボンプのまわりを、ふたたび歩きました。
けれども孔雀のポンプは、返事がしません。
「モー、モー、どきげんいかが。」
牛は、こういったて、いねに挨拶をしました。
けれども孔雀のポンプは、返事をしません。
「コツ、コツ、孔雀さん、つんぼにちがいかえありません。」
親切なめんとりは、気の毒に思って、こういいました。
そしてポンプのそばへ、よって行きましょう。できるだけ
背のびをしてポンプに聞いて、こういいました。
「コツ、コツ、遠くからいらっしゃったから、ざそおなかがすきです。」
と、大きな声でいいました。
それでもポンプは返事をしません。ポンプは、うるさいなと思ってるのです。
「これは、農園のものでも、なにをたまらないことを言うのだろう。」
と、はああに、一層ますます見せました。
そこでみんなに、一層ますます見せました。
その長い羽根は、王さまの하신다るさのように見えました。
「おや、私に言ったことが、お気にさわったのですでしょうか。」
と、やさしいめんとりがいいました。
「そうじゃありませんよ、とにかく、あれは、かわかった鳥ですよ。」
と、ほかのものがみんなで、めんとりを慰めました。
おんとりは、いまいましけらに、こういいました。そして一日中、

「ぼんとうに、高慢ぎきな孔雀だ。」

「けれともボンプは、このおんとりに、また農園のだれにも、言葉を一つかけようとしました。毎日毎日、

一日中、農園のそばの道を、気をつけて歩いたり、来たりしていまして。毎日毎日、

お母さんたちは、子供を呼んでました。子供も大も、みんな遊びをやめて、地下室へはいりました。けものたちは

納屋へ、鳥たちは鳥小屋へ入れられました。農園の人たちは、孔雀も入れようとしていました。けれとも孔雀は、はい

「ばかな奴だ。」
こういつて、農園の人たちは、空を見上げました。そして地下室へかけこみました。つむじ風が、近づいたのであ

「え、しまった。」

「王さまを追い立てるなんて失礼だ。」

「でも、 дорの形をなしてから、あたりをつながりました。」

「や、今朝はみんなどこへ行ったのだろう。だれもいないだろ。」

「もう、こう思った時、妙な黒雲が、道の上まで、長い尾をたたらしました。考ええもない。」

「ポンポがこう思った時、妙な黒雲が、道の上まで、長い尾をたたらしました。考ええもない。」

「ウン、ひどかった。」

「ああ、よかっただ。だれにも見られなくて、どうぶやきながら、立ち上りました。そうとあたたきを見逃しました。だれもいないのです。」

「ああ、ぼつとしたのです。大いに身をこらえようと、なんだが、すぐにさびしくなりました。お仲だちがほしく

ポンポは、初めてこう思ったのです。
農園の人たちも、けものも、鳥も、みんな一つところで集まっていました。がやがやかな声がなががながなが、みんなの顔が、たちりひるみでした。みんなの目が、まるく、まるく、なりました。ポンプ、いつもみんなにうらやましさがされています。ポンプの、まるたるさを思い見えました。王さまのそばに

「きらきら」する頭を、また高慢ちきにあげようとしました。

ポンプは、また尾の羽根を、見ごとの肩にして、ひろげようとしました。

「そんなことはないよ。あの羽根は、来年になると、またはえるんだよ。」
と、教えました。
あのきれいだった。ポンプのところは、低く低くたれがりました。けものたちも、鳥たちも、みんなかわいいそ
うに思って、いろいろと話しかつています。たった一羽、なんどりだけ、気持ちがよさそうでした。
「けませんよ。そんなことを言つては。」
「イケませんよ。なんどりは、おさんとりをいらがありました。おさんとりは、ポンプのそばに、よつて行きました。背のびをして、
親切なぬんどりが、おさんとりをいらしました。おさんとりは、ポンプにわかるように、羽ばたきをしました。
「コン、コン、おおの、すてですね。お返事をしました。
その話を聞いて、孔雀のポンプが、お返事をしました。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてですね。
「コン、コン、おおの、すてですね。
「あ、あ、おおの、すてね